



年頭に当って

当社取締役社長 上杉 登

新年明けましておめでとうございます

皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます

去年は年末に発行しました当紙“MJ10大ニュース”にても掲載しましたが、政治、経済、農業、肥料業界すべてにおいて激動の年でした。振り返ってみますと、為るほどと思わせる遠因がそこにはあります。政治では中央集権行政の限界、経済界では人口減並びに高齢化による内需の縮小並びに海外市場における競争の激化、農業界では農業人口の減少並びに再生産コストをカバー出来ない収支構造、肥料業界では耕地面積の減少に伴う肥料需要の減少並びに肥料原料の資源化などが挙げられます。新興国が主役となり世界の景気は回復基調にあります。日本はその流れに乗り切れず、一方では消費不振から経済全体がデフレに陥ったと解析されます。これらの要因はすべて構造的なものでありその対応策として、政府は中央集権から地方主権に、内需の回復のためにまだ発展の余地のある環境、健康分野への注力、世界市場で経済発展が続くアジア市場の重視、農業所得の赤字を食い止める戸別所得補償制度の導入、耕地面積の有効利用を図る農地法の改正などの政策を打ち出していますが国民が納得する制度設計になるか注目したいところです。産業界は政権の意向に拘わらず、内需の縮小への対応並びに海外競争力アップのため業界再編成を加速させており、肥料業界のジェイカムアグリの誕生もその流れにあります。このように見えてきますと、今年も激動の波はおさまりそうもないと推測されますが、私どもの周辺の事業環境は大転換に向けて動き出しております。寅年に生まれた方は、行動的、情熱的でどんな問題でも正面からぶつかって解決の為の努力をされると言われております。私どもも寅年にあやかり、いかなる難題に直面しようとも守りぬき新たな時代に挑戦する心構えを持ちたいところです。さて、中長期的な視野で将来を見てみると次のようなことが浮かんでまいります。私どももちょっと先をゆく気持ちを持ち、自己研鑽しましょう。



大転換の3つのキーワード（*）

アジアの時代 = 中国、インドの経済成長、更に西に延びれば資源国のアフリカがある。 エコ・エネルギーの世紀 = 太陽光発電と風力発電などの新エネルギーは自動車並びに住宅市場の変革を促す。 インフラ投資 = 世界で今、最先端技術を活用し、旧来型の道路や橋梁を極力防ぎ、「交通」「エネルギー」「環境」「インフラ」の4分野で430兆円に上るインフラ投資が計画されている。

企業経営の3つのキーワード（*）

応変 = ダーウィンは生き残る種について、それは強い種でも、賢い種でもなく、変化に対応出来る種が唯一生き残ると言っている。付加価値を生むような超変態が必要。製品・サービスの水準に満足するのではなく、要望・要請の水準を上回る付加価値を生み出す。 個客 = 企業が深く考えることなく、現在の売上比率が最も高い事業が引き続き「本業」になると安易に想定するとサプライサイドの視点になる。今後の戦略を練るのは顧客のニーズから判断する「顧客本位」で検討すべき。顧客志向を徹底していくと「個客」となる。企業は個人が発する情報に気を配ると共に、自らも個人向けに情報を発信すべき。 自立 = アジアを一種の内需とみて、覚悟を決めて深入りする。斬新な発想が生まれたら、その後は年配者の経験と知恵を借りて実行に移す。

（次ページへ続く）

農業の3つのキーワード

種子革命 = 昨年、「陸稲」から、新しいタイプのいもち病抵抗性遺伝子を発見され、ゲノム情報を利用して美味しくてもいもち病に強い「中部125号」が開発された。今後、ゲノム情報を利用した品種開発の高度化が進む。 精密農業 = 農業生産工程管理を通して食の安全を科学的に証明するJGAPの普及と共に農業への企業参入はITを活用したセンサーによる農場管理並びにGPSを利用した効率的な大規模農作業の開発を促す。 農業6次産業化 = 消費者目線による農産物の生産、加工品の製造を目指し農業と商業並びに工業の連携が進む一方、インターネット活用による広域な同業種並びに異業種提携による安定供給体制の構築が進む。

農業経営の3つのキーワード

経営力 = 農業経営の透明性は民間銀行の無担保融資への道を開く。農業は農産物の製造業であり、その生産工程管理は食品トレサの出発点でもあり、原価管理はコスト削減に繋がる。農業の効率化と付加価値は同類であり、税金を貰う経営でなく税金を払う経営は農業産業化に繋がる経営スタイルとなる。 商品力 = 農産物も形(容姿)でなく中身(栄養成分)で価値を評価される時代は数年以内に到来する。均一した高品質な農産物を安定的に供給する仕組みとのパッケージが求められる。 地域力 = 地域の中核産業は農業であり、農業を産業とする政策に加え、農商工連携において工業、商業が農業と補完しあう構図が進む。売れる農産物づくりの情報ネットワークを差配する、農業コーディネーターの存在が成功の鍵を握る。

肥料力の3つのキーワード

肥料のもつもう一つの価値 = 土の力を補助し植物の生育を促す肥料は農産物に商品力をつける。施肥技術は商品力に磨きをかける。農業を科学する精密農業は安定した肥料成分を保证する肥料を必要とする。ジシアンジアミド入り合成肥料は茶畑の土壌から発生する N_2O (一酸化二窒素)抑制する効果がある。このように、肥料はその施肥する目的を環境、健康分野にまで広げることができる。

肥料人の力 = 農商工連携には商品のもつもう一つの力と地域のすべての産業が力を合わせる連携が必要とされる。商品のもつ美味しさや安全性、値ごろ感に加えストーリー性のある地域の特色を打ち出すことが求められる。地域に根ざす肥料商の方々やJAの方々の商品のもう一つの力・価値を生み出す役割を従前から担っていることに自信をもち、その役割を充分に発揮し存在感を高めることになる。 肥料プラス = 大転換時代には肥料生産・販売だけの知識・経験に加え、消費者・実需者目線で肥料プラスを提供することが生き残りの手段となる。プラスは立場により異なる形態を作りあげ事業の価値を押し上げることになる。

最後になりますが、今年が皆様にとって素晴らしい年になりますことを祈念して年頭の挨拶に代えさせていただきます。(*): 出展日経ビジネス

2010年の10大ニュース予想

1. デフレ経済に逆戻り安値競争VS他より1円でも高く
 2. 日本を含む先進国は春頃にそれほど深くない二番底に
 3. 東アジア元気で世界経済の世代交代進行
 4. ドル不安再燃 円・人民元、そして資源・食料価格じり高
 5. CO2削減が大テーマ エコハウスとエコライフがブームに
 6. 成長戦略の一環で医療・農業・教育再生への取り組み強化
 7. 同じく成長戦略の一環で規制改革議論活発化(希望的観測)
 8. 地方分権(地域主権)議論ようやく本格化
 9. 財政再建仕切り直し 事業仕分け再び
 10. 交通・都市インフラ見直し 国土作り直し議論活発化
- 番外編 : 米中間選挙で民主党敗北 オバマ政権レイムダック化

「ワールド・ビジネス・サテライト」
「ウェークアップ」のコメンテーターで有名な日本総研副理事長の高橋氏が、『日本経済再生への挑戦』と講演で今年の10大ニュースを予想している。デフレ脱却には、如何に付加価値を上げるか、1円でも高く売る競争が必要と提言している。

新年明けましておめでとうございます。今年はお正月休みが短く、遠方へ出向く人が少なかったのが、都内の三が日は沢山の初詣客で賑わい、2日の初売にも多くの人を見かけました。本年も沢山の方にご愛読頂ける様、情報発信に努めて参りますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

編集局長：小田原次洋 アシスタント：助川尚子

電話：03-5802-2011/E-mail：journal@mcagri.co.jp URL http://www.mcagri.jp